会議録（速報版）は、暫定的なものであるため、正式な会議録とは一部異なり、今後訂正される場合があります。
正式な会議録は、調製後「会議録の検索と閲覧」に登載されます。

○住永栄一郎君　上益城郡区選出・無所属の住永栄一郎でございます。

まず、ＤＸじゃなくて申し訳ございません。紙資料で行かせていただきます。

本日、私、６月16日、孫の誕生日でございまして、その記念すべき日にこうやって質問をする機会をいただきましたこと、本当に先輩の議員の皆様方、ありがとうございます。

木村知事が就任をされて１年がたちました。本当に、いろいろ御苦労もあるかと思います。お疲れさまでございます。

また、日本の紙幣が新しくなってちょうど１年がたちます。日本の最高紙幣１万円の表紙に顔が写っていらっしゃるのは渋沢栄一さん。私も栄一郎でございますけれども、同じ栄一を使っている身分といたしまして、岩下栄一先生、どうぞよろしくお願いいたします。私も、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問に移らせていただきたいと思います。

益城町の復興に向けた道路整備の推進について。

熊本地震発生から９年が経過しました。来年には10年目を迎えることになります。県や益城町をはじめ関係者の多大なる御尽力により、県道熊本高森線の都市計画道路区間もいよいよ事業完了が見えてきました。

しかしながら、益城町を含む上益城郡は、熊本市に隣接したベッドタウンとして発展してきたいきさつがあり、交通渋滞に関しては、まだまだ深刻な面が相当あると認識しています。

益城町の熊本地震からの復興は、まだまだ道半ばであります。これから本格的な復興を遂げていくためには、町に新たなにぎわいを創造することや住民の安全、安心で快適な居住環境を保障する宅地整備など、取り組むべき課題は山積しています。そして、道路の整備も大きな課題であると私は考えています。

先ほどもありましたけれども、先日も、私は、熊本都市圏の渋滞について、専門家の方からお話を聞く機会を得ました。熊本都市圏の渋滞解消のためには、自動車利用を１割削減し、渋滞により発生する時間のロスを半減させ、公共交通機関の利用者を２倍に増やすことなどが基本的に望まれる解決策であるとの話を聞きました。

自家用車による通勤者を現在よりも１割減らすためには、通勤者の行動変容が必要になります。また、公共交通機関が、利用者にとってより速く、より安く、より快適であることが重要です。

渋滞解消は、道路整備のみで完結すると私は考えておりません。今後も、機会を捉えて、渋滞解消に向けたアイデアや提言などをしていきたいと考えています。今回は、私の課題認識についてのみ触れさせていただきました。

さて、とは言いましても、渋滞解消のためには、もちろん道路整備が欠かせないことは論をまちませ

ん。益城町の復興に向けた道路整備の推進について、地域に密着した課題として幾つかお尋ねをしたいと思います。

まず、国道443号線の道路改良についてです。

国道443号と熊本益城大津線、通称第二空港線が交差する益城町の平田交差点付近の渋滞は、以前から地域の深刻な課題となっていたところです。交差点改良により、渋滞を解消させ、快適な地域交通網を整備することが求められています。

次に、県道益城菊陽線の整備についてです。

小中学校の通学路でもある益城町立益城中学校付近は、車道や歩道幅員が極めて狭く、大変危険な状況です。

このほか、県道熊本益城大津線、先ほどの第二空港線の道路保全についても、気がかりな点がございます。

街路樹であるクスノキが巨木化し、根がアスファルトを押し上げ、路面に段差が発生していたり、場所によっては道路沿線の畑にも根が張り、悪影響を及ぼしています。また、長い年月を経過した結果、クスノキが巨木化したため、落葉の季節には落ち葉の量がかなり多く、これも歩道の安全を妨げている状況です。自転車のタイヤが滑りやすく、けがをする子供もいると聞きました。

巨木化したクスノキを街路樹として保全していくことには、今後もかなりの経費がかかることとなることは間違いないです。剪定作業を続けるよりも、伐採や抜根などによる街路樹の撤去も一案ではないかと思います。私としては、安心、安全、経費削減のために、早急にある程度切ったほうがいいと思います。

以上のとおり、益城町のメインの縦軸、国道443号線の道路改良の状況、県道益城菊陽線の歩道整備の進捗と今後の見通し、県道熊本益城大津線の街路樹の維持管理の考え方について、土木部長にお尋ねをいたします。

〔土木部長菰田武志君登壇〕

○土木部長（菰田武志君）　まず、国道443号の道路改良の状況についてお答えします。

国道443号は、県北地域と県南地域を結ぶ幹線道路であるとともに、地域の生活を支える重要な道路です。

益城町内では、主要な道路との交差点において、朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞が発生しており、現在、即効性のある取組として、渋滞が著しい交差点の改良を３か所で行っています。

具体的には、県道熊本高森線の４車線化に合わせて整備を進めている寺迫交差点では、今年度の完了を、また、小池高山インターチェンジ北側の小池交差点では、来年度の完了を目指し、工事を進めています。

さらに、議員御指摘の平田交差点は、県が令和９年度までの３か年で完了を目指す、渋滞緩和に向けた短期対策箇所の一つで、警察との交差点協議や用地取得の後、来年度から工事に着手する予定です。

次に、県道益城菊陽線の歩道整備の進捗と今後の見通しについてお答えします。

近年、他府県で発生した通学路における重大事故を踏まえ、県内の通学路においては、各市町村が策定する交通安全プログラムに基づき、学校関係者、警察、各道路管理者で、毎年、危険箇所の合同点検を行い、児童生徒の安全確保に取り組んでいます。

県道益城菊陽線の益城中学校付近は、歩道が狭く、危険であるため、益城町のプログラムに基づき、県としても、平成26年度から歩道の整備を進めています。

現在、計画区間のうち、益城中学校から北側に整備を進めており、残る区間についても、来年度の完了を目指しているところです。

最後に、県道熊本益城大津線の街路樹の維持管理の考え方についてお答えします。

県では、有識者による検討会議を経て、平成28年度に熊本県道路植栽維持管理計画を策定し、それぞれの地域の道路特性を踏まえて、良好な景観や環境を守ることを目的に、街路樹の維持管理を行っています。

御質問の県道熊本益城大津線は、阿蘇くまもと空港と熊本市中心部を結ぶシンボル的な道路ですが、街路樹の成長に伴い、歩道部の根上がりによる路面の段差や車道部からの見通しの悪さなどの課題が生じています。

このような状況を改善するため、適時、路面の補修や剪定、落ち葉の清掃を行うとともに、維持管理計画に基づき、必要に応じて景観アドバイザーの意見や地元からの要望を踏まえ、優先度の高いところから伐採を進めています。

今後とも、円滑で安全かつ良好な道路環境を目指し、地元自治体とも連携しながら、整備や維持管理にしっかりと取り組んでまいります。

〔住永栄一郎君登壇〕

○住永栄一郎君　土木部長に御答弁をいただきました。これで少しはよくなるのではないかなと思います。

先日、その第二空港線で、御婦人がごみを出しに行くときにけがをされたということのお話を聞きました。そのときは、上益城振興局さんに即座に対応していただきました。本当にありがたかったです。とにかく、各道路、早急にお願いします。

益城は、ショッピングモールがあるわけでもなく、企業や工場が密集しているわけでもありません。県南と県北を結ぶ、その間が益城です。今でしたら、住宅街よりも畑のほうが多いわけですから、今のうちにやっていただければというふうに思います。

また、渋滞は、県全体で解決をしなければいけません。先日、新聞記事を見ました。県民から広く御意見をいただくようなことが載っておりました。大変いいことだなと思いました。そしてまた、実証実験もいろいろとやっていらっしゃいます。いいことはどんどん続けて、そして、大したことない部分に関しては、新しい施策をどんどん出してやっていただければと思います。

先ほど南部先生のお話にもありましたけれども、この渋滞が今では世界第４位、不名誉な記録でございます。もうとっととこういったやつは払拭できるように頑張っていただければと思います。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

続きまして、次の質問に移りたいと思います。

『ONE PIECE』と地域資源を生かした観光振興について。

漫画やアニメのコンテンツの中で、『ONE PIECE』を生かした取組につきましては、本県でも、熊本復興プロジェクトとして県内各地にキャラクター像の設置を進めるなどにより、着実に盛り上がりを見せています。

昨年、阿蘇くまもと空港の国際線利用者は、過去最多となる48万人でした。アニメや漫画の作品の舞台になった土地や建物を訪れる観光旅行は、聖地巡礼とも呼ばれ、特に日本のアニメや漫画を好む外国人の観光客にとっては、人気のあるツアーのようです。

アニメ漫画「君の名は。」の主人公である瀧が育った東京都新宿区とヒロインの三葉が育った岐阜県飛騨市は、それぞれ聖地になっており、観光地としてすばらしいにぎわいを見せています。アニメ版「スラムダンク」のオープニング曲で使われた神奈川県鎌倉市の江ノ電、鎌倉高校前駅のシーンも、聖地としてすばらしいにぎわいです。御承知のとおり、本県でも、『ONE PIECE』だけでなく、人吉、球磨における「夏目友人帳」とのコラボ企画などの取組もあっています。

こうした取組は、コンテンツツーリズムと呼ばれ、現在、観光誘客に向けて、趣向を凝らしながら、全国の自治体がそれぞれに競い合っている状況です。

昨年、私は、外国人技能実習制度による派遣人材の育成機関等を訪問する機会を得て、ベトナムとカンボジアに行ってまいりました。その際、そこで日本語を学ぶ学校の50名程度の若者に、熊本に関する幾つかのことを尋ねてみました。

まず、熊本という地名を知っている人、２～３名、熊本県の有名な観光地、阿蘇、熊本城を知っている人、これも２～３名、くまモンを知っている人、５～６名。そこで、『ONE PIECE』を知っているかと尋ねたところ、50名程度の若者のうち、何とほぼ全員が知っていると即答をしたのです。

世界に名立たる漫画である『ONE PIECE』は、外国の若者にとっても、知っていて当たり前のコンテンツなのです。熊本のことは知らなくても、ルフィのことはみんな知っています。これを世界における熊本の認知度を向上させる取組につなげない手はありません。

半導体産業を支える人材を確保していく面からも、農林畜水産業を支える人材を確保していく面からも、外国人の産業人材確保は、本県にとって重要な課題の一つです。『ONE PIECE』というコンテンツを生かせば、世界の若者に熊本をＰＲすることができるのではないでしょうか。

県庁プロムナードのルフィ像周辺では、キャリーケースを持った外国人観光客が記念撮影などをしている姿を毎日見かけます。西は宇土市から、東は阿蘇、高森まで、県内に10体置かれているワンピース像をより活用した取組があれば、さらに聖地化することでもっと多くの観光客が訪れるきっかけになるのではと思っています。

そして、カフェや集いの場があれば、聖地巡礼の旅先で観光客同士の交流も生まれ、そのことが世界中にＳＮＳなどで発信されることで、さらなる誘客にもつながるのではないかと思います。

本年４月より、ワンピース像を生かしたバスツアーの企画も始まりましたが、今でも外国の方が１日かけて５～６万使い、タクシーで回るという現状が続いているとのことです。現時点でのツアーの状況はいかがでしょうか。

また、昨年始まりました山都町清和文楽での『ONE PIECE』とのコラボ企画は、どのような状況でしょうか。

私の知人が先日行ったところ、内容は感動するほどすばらしいものでしたが、お客さんの入りがまばらで寂しかったと言っておりました。聞くところによりますと、交通アクセスが悪く、旅行者の方が行きにくい。要は、観光のインフラ整備とこの企画の告知や発信の仕方も、両企画ともに抜本的な改善が必要だと考えられます。

このように、地域資源を『ONE PIECE』のストーリー性と絡めていけば、今まであまり知られていなかった地域の魅力や観光の穴場などをさらに掘り起こすことにもつながるはずです。

世界における熊本の認知度向上にも資する『ONE PIECE』と地域資源を生かした観光振興について、これまでの取組実績や現在の検討状況、そして今後の方向性について、観光文化部長にお尋ねいたします。

〔観光文化部長脇俊也君登壇〕

〇観光文化部長（脇俊也君）　漫画、アニメ等のコンテンツは、いわゆる聖地巡礼による観光誘客、地域プロモーションへの活用など、地域活性化に様々な効果があります。

本県出身の漫画家尾田栄一郎さんが描く漫画『ONE PIECE』と連携したONE PIECE熊本復興プロジェクトの取組も同様です。

熊本地震発災直後に発信された尾田さんからの心温まるメッセージ、船長ルフィの指示の下、被災地の困り事をそれぞれの特技で解決していくというストーリーで、県内10か所に設置された麦わらの一味の銅像が、熊本地震からの創造的復興の原動力として、我々を力強く後押ししてくれました。

また、銅像設置後は、経済的な復興なくして地震からの復興はなしとして、銅像を起点とした周遊施策や県内事業者とのコラボ商品の支援など、様々な取組を進めています。

議員お尋ねのワンピース像を生かした２日間のバスツアーは、４月の開始からこれまで３回運行しており、７月以降の予約も既に入っています。銅像の制作秘話の紹介や物産館等での買物、熊本地震震災ミュージアムへの訪問など、豊富なメニューを含む内容となっており、参加いただいた方には好評です。

引き続き、ファンのみならず、より多くの皆様に楽しんでいただけるよう、ツアー運行事業者とも連携を図り、プロモーション強化や販路拡大等による誘客を図ってまいります。

次に、清和文楽とのコラボ企画については、令和４年の熊本県立劇場での特別公演後、昨年３月から清和文楽館において定期公演を開始しました。

議員御指摘のとおり、観覧者数は、公演日により差がありますが、多いときには100人近くお越しいただいていると伺っております。

引き続き、より多くの皆様に御覧いただけるよう、告知方法や公演日の設定、アクセスの充実などについて、関係自治体や事業者と検討を行い、ひいては国宝通潤橋をはじめとした観光周遊にもつながるよう、連携して取り組んでまいります。

最後に、『ONE PIECE』と地域資源を生かした観光振興についてお答えをいたします。

ONE PIECE熊本復興プロジェクトでは、これまでＡＲやデジタルスタンプラリーなど、銅像を起点とした周遊促進を柱に取り組んでまいりました。また、銅像周辺の観光情報等を紹介するガイドブックや動画の制作、南阿蘇鉄道とコラボしたサニー号トレインの運行なども行っています。

こうした取組の効果もあり、昨年、ナビタイムジャパンから発表されたコロナ前の2019年度と2023年度を比較した外国人旅行者の滞在増加率は、道府県別で本県が全国第１位となりました。また、県内市町村別では、銅像のある９市町村が上位を独占し、改めて『ONE PIECE』の力を感じたところです。

来年４月には、熊本地震、そしてプロジェクト開始から10年という節目の年を迎えます。『ONE PIECE』と連携して取り組んだこの10年の歩みを多くの人に知っていただくとともに、支えてくださった方々への感謝の気持ちを届けられる企画の検討を進めているところです。

そして、『ONE PIECE』を通じて、熊本を知り、訪れてくださる方々が、熊本の観光も楽しみ、また来たいと思っていただけるような魅力あるコンテンツ造成に向け、市町村をはじめ地域の方々ともしっかりと連携しながら取り組んでまいります。

〔住永栄一郎君登壇〕

○住永栄一郎君　観光文化部長に御答弁をいただきました。

ナビタイムジャパン発表の滞在増加率全国１位、本当にすばらしいと思います。銅像のある９市町村が上位を独占、またこれもすばらしい。ですが、『ONE PIECE』の力は、こんなもんじゃないと思っています。来年はプロジェクトの開始から10年という節目の年を迎えるということですから、ぜひビッグプロジェクトをお願いしたいと思います。

『ONE PIECE』のコラボ列車は、現在走っています。次は、船をお願いしたいと思います。サウザンドサニー号です。2022年３月でハウステンボスにてのクルーズは終了しております。新たな冒険への旅立ち先として、天草でのクルーズを私は熱望します。ぜひ迎えてください。

観光を爆発させるためには、大きな目玉が必要です。今、ワンピース像の９市町村が上位を独占しているとのことですから、来るとなると、天草は本当にハワイになると思います。お金がかかっても、復興支援ですから、全力で向かってください。どうぞよろしくお願いいたします。

次の質問に移りたいと思います。

熊本の未来をつくるアリーナの必要性について。

昨年11月議会での一般質問におきましても、私から知事にお尋ねをしたアリーナ整備の必要性に関して、今回、再度改めてお尋ねをいたします。

経済産業省とスポーツ庁は、2017年に、まちづくりや地域活性化の核となるスタジアム、アリーナを、2025年までに20拠点整備するとの目標を掲げていました。今年がその最後の年、2025年に当たりま

す。

昨年の長崎に引き続き、今年４月には、神戸に１万人規模のジーライオンアリーナ神戸ができました。今年の夏、７月には、名古屋に１万7,000人収容のＩＧアリーナが誕生をいたします。

岡山でも、計画が持ち上がってから５年、280億の整備費用を国、県、市と民間企業が拠出する形で協議が進んでいます。愛媛県では、計画段階から２年、駅前に整備箇所を確定させています。これは、たった２年なんですよ。それから、さらに先月５月26日、鹿児島におきまして、県議会で8,000席のアリーナ計画を488億で進めることが明らかになりました。

アリーナは、スポーツイベントはもちろんのこと、コンサートやその他の催事でも活用できますし、本県は、九州を支える広域防災拠点構想の中でも、防災拠点の集積地としても重要な意義、立ち位置を持ちます。だからこそ必要なものであると私たちは考えています。

足元の本県におきましては、知事肝煎りで公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議が設置され、昨年11月に開催された第２回検討会議では、アリーナや県営野球場の建設を招致しようとしている八代市や菊陽町など、意欲ある自治体からもヒアリングを行ったと伺っています。

老朽化したスポーツ施設の整備はもちろんのこと、新規整備が必要なアリーナについても、議論を深めていただいているものと考えています。現時点で公表されている整備検討に関する今後のスケジュールを見ますと、もうちょっとスピード感があってもいいのではないかなというふうに感じます。

新アリーナの整備を検討している八代市や県営野球場の誘致を検討されている菊陽町など、やる気のある自治体と協力することも一つの可能性だと思います。そして、県がどのように支援をするかを検討した上で、早期の判断と決断が大事ですが、どうなりましたでしょうか。

プロスポーツは、子供たちに夢や憧れをもたらします。競技への夢や憧れがあることで、試練や修練を重ね、子供たちも大きく成長をします。

スポーツのみならず、次の世代を育てるには、まず環境を整えることが必要だと思います。そのためにも、本県のスポーツ界がますます発展していくためには、その確固たる礎としてアリーナを建設することが最優先の課題だと私は考えています。

100年に１度の大チャンスだと私は以前から訴えてまいりました。機運醸成の今だからこそ、スケジュールをさらに、前倒しを含めて、もう一歩踏み込んだ加速化が必要だと思います。とにかくゴールを決めないと、見えないゴールに向かっていつまでも走るわけにはいかないのです。やるかやらないか、知事の御自身の決断にかかっています。

そこで、公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議において、アリーナ整備に向けては、これまでどのような議論がなされてきたのか、また、具体的なアリーナ整備計画の策定等に向けた意思決定を、今後加速化する予定はあるのかないのか、知事にお尋ねをいたします。

〔知事木村敬君登壇〕

○知事（木村敬君）　公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議では、アリーナに関して、スポーツでの利用はもちろん、コンサートなどの興行利用に加え、防災の観点での整備を求める意見があり

ました。また、県内市町村や民間事業者が考えるスポーツ施設の整備構想を受け、官民連携を進めるべきだといった御意見もありました。

アリーナは、季節や天候に左右されず、スポーツはもとより、多様な用途に活用でき、多くの県民に夢と感動を届けることができる施設だと思っております。とりわけ、将来を担う子供たちにとって、スポーツを自ら楽しむだけでなく、国内外のアスリートの迫力あるプレーを間近に見る場が生まれることで、夢や希望を育み、成長できる貴重な機会が創出されるものと考えております。

検討会議の中でも、老朽化が進む県有スポーツ施設の再生の一つとして、アリーナ整備について論点整理が進んでおります。

今議会でも、前田議員、そして先ほどの南部議員の御質問でもお答え申し上げましたが、私は、昨年の知事選でのマニフェストにおいて、任期中、すなわち2028年までに方向性を出すとしておりましたが、県民の期待の高さもあり、2026年度に前倒ししたところですが、そして今は、検討会議での議論状況を踏まえて、さらにそれを加速すべく、作業を進めているところでございます。

県としては、検討会議からの御意見を踏まえ、できる限り早期に方向性を決定していきたいと考えております。

〔住永栄一郎君登壇〕

○住永栄一郎君　知事、少し早くなりましたですね。ありがとうございます。

ですが、鹿児島に追い抜かれてしまいました。遅くなればなるほど、ハードルが上がります。後になって、みすぼらしいものは建てにくくなります。どうぞ早めに、場所、建て方、サイズ、お金、そして県の関わり方、出していただければと思います。知事、2025年、できれば今年決めましょう。今回の質問でも、各会派の議員の先生方、それぞれの地域の代表でもあります。みんなの願いをかなえてください。新しい熊本のシンボルをつくりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、次の質問に移ります。

高校授業料無償化を受けての県立高校の魅力化について。

高校の授業料が無償化される見通しであるとの報道に我々は接しています。そもそも、建学の精神が違う私立高校と公立高校の授業料を、一律に無償化することに対する是非も十分に議論されないまま政策の実現を見ることになることには、私は深い憤りを覚えているところです。しかしながら、決まってしまう以上は、何らかの対策を取らざるを得ません。

まず、郡部の県立高校の危機感は、容易に想像がつくと思います。上益城郡には、矢部高校、甲佐高校、御船高校の３つの県立高校があります。一部定員割れのコースなどを抱えながら、これまで踏ん張ってきた経緯もあります。

今回の高校授業料の無償化に伴い、上益城郡の中学生は、進学先として熊本市内の私立高校を選択する可能性が、これまで以上に格段に上がりました。

そもそも上益城郡は、熊本市のベッドタウンという側面を持っています。私立高校と県立高校の授業料が無償であれば、多少の交通費がかかっても、施設がきれいで、学食などの広い飲食スペースもあ

り、トイレが洋式化されているような、過ごしやすい校舎建設に取り組み、これまで県立高校との差別化を図ってきた私立高校のほうが、断然優位になることは、火を見るよりも明らかです。

そこで、県立高校についても、これから施設整備などに取り組むこととしたところで、私立高校のスピード感には太刀打ちできないのではないでしょうか。県立高の施設整備を一律に行う財源は、なかなか確保できないと思われます。

そこで、県の財政支出による県立高校の施設整備には、一定の限界があることを理解した上で、ほかにできることについて、あらゆる可能性を排除せずに検討し、できることは全てやるという気概を持って取り組むしかないのではないでしょうか。

例えば、部活動のＯＢや同窓生が出資して、部活動の部室を新築する経費を捻出するとか、部活動の強化費用を寄附するとか、スピード感のある機動的な対応が求められます。

地域から地元の県立高校に通う若者の姿が減っていくと、地域全体のにぎわいが失われ、地域の活性化を大きく阻害することになります。

県立高校の魅力化のためには、危機感を強く持っている地域の関心を喚起しつつ、同窓生の母校への思いを募り、地域を結集して、一層強力に取組を進めていく必要があると思います。

私のところにも具体的な相談がありました。学校内の施設の老朽化が激しいため、同窓生がトイレの洋式化などの学校の改修を行う支援をすることはできないかというものでしたが、担当課に確認したところ、地方財政法に抵触する可能性が大きいとのことでした。

であれば、他に県立高校を支援する方法はないか調べたら、ふるさとくまもと応援寄附金制度がありました。これは県へのふるさと納税で、この中に夢教育応援分があり、申込みの際に応援したい高校等を指定すると、その高校等に寄附額の２分の１が交付されるというものでした。

令和６年度分の団体指定の交付実績額を確認しましたら、1,194万7,500円でした。もっと周知が必要だと思いました。ぜひ県民の皆様に知っていただきたい制度です。

学校には、部活ＯＢや同窓生が、強い母校愛で協力しようという多くの応援者がいらっしゃいます。また、地域が一丸となって県立高校の魅力化を推進していくことが求められます。高校授業料が無償化される以上、大勢の皆様の支援が必要です。必要な取組は、待ったなしですぐに着手すべきです。

そこで質問いたします。

高校授業料無償化に伴い、県立高校を抱える郡部地域においては、若者の都市部への一部の流出が懸念されているところです。特に、上益城地域の県立高校は、かなり厳しい状況になりますが、地域の大きな不安に対し、これを払拭するために、上益城地域の県立高校魅力化に向けて、今以上の取組を具体的にどのように展開されていくか、教育長にお尋ねいたします。

〔教育長越猪浩樹君登壇〕

○教育長（越猪浩樹君）　上益城地域の県立高校の魅力化に向けた取組についてお答えします。

まず、高校授業料無償化についてですが、教育費の負担軽減に伴い、学校の選択肢を広げるという効果がある一方で、議員御指摘のとおり、特に都市部への交通アクセスが比較的スムーズな地域の県立高

校については、定員割れに拍車がかかり、さらに厳しい事態になるなど、影響が大きいと考えております。

現状においても、矢部高校、御船高校、甲佐高校ともに定員が充足していない状況が続いており、地元県立高校の将来を心配する声があるのも認識しております。

このため、矢部高校においては、地域や県立農業大学校と連携した有機栽培の研究やスマート林業に係る先進的な技術習得、全国唯一の部活動である二輪車競技部による交通安全普及活動などに取り組んできたところです。

今後は、山都町や県内企業、大学等とさらに連携を強化し、個別指導やより高度で専門的な探求活動の充実など、さらなる学校の魅力化に取り組むこととしております。

御船高校については、普通科と普通科芸術コース、電子機械科といった特色ある学科、コースの学びを中心に、魅力化に取り組んでいます。

今後は、デジタルを活用したものづくりやＡＩ、ビッグデータを活用し、課題解決能力や創造性を育む教育に取り組むことで、特色、魅力ある文理融合的な学びの充実に取り組むこととしています。

甲佐高校では、一人一人の個性を重視した個別丁寧な学習指導とキャリア教育の充実、また、甲佐町との連携により、公営塾の開設等にも取り組んできました。

今年度からは、甲佐町の支援により、情報発信力にたけた民間企業との連携を通じて、情報収集や情報モラルを学ぶ活動や、国の補助事業を活用して、松橋西支援学校との交流等を通じ、共に学ぶ新たな学びの場を目指した実践的な研究にも取り組むことで、さらなる魅力化を図ることとしています。

これらに加えて、矢部高校と御船高校では、地元市町村が主体となり、高校魅力化コンソーシアムを立ち上げ、地域を挙げて地元の県立高校の将来を見据えた在り方や魅力化について検討することとされています。

今後とも、県教育委員会、学校、そして地元市町村が一層連携を強め、地域に根差した県立高校の魅力化に向け、しっかりと取り組んでまいります。

〔住永栄一郎君登壇〕

○住永栄一郎君　教育長に御答弁をいただきました。

各学校の魅力化に向けて、丁寧な説明をいただきました。ありがとうございます。

学校を選ぶ際に、学科とかそういったものも一つですけれども、やっぱり設備、校舎も非常に重要なポイントになってきます。先ほど触れましたふるさとくまもと応援寄附金制度は、これは税務課だそうです。教育課と税務課。ふるさと納税のＰＲの仕方はいろいろあると思いますが、県外に住む熊本県人には、郷土愛があふれた方がたくさんいらっしゃいます。特に、熊本の場合は、独特で、知り合いに大学を尋ねるよりも出身校を尋ねる人が多いと言われています。夢教育応援分には、納税すれば母校の応援ができるということをもっとＰＲすれば、母校愛にあふれた先輩方が出身校に寄附をしようと思ってくださるのではないでしょうか。そして、返礼品についても、母校の活動をうかがい知れるようなものを企画してもおもしろいのではないかと思います。ふるさと納税は税務課、県立高校の魅力化は高校教

育課、そういった縦割りだけでは、熊本をふるさととしている県外の熊本県人の寄附意欲を喚起することはできないと思います。ぜひ、縦割りを排して、ふるさと納税をもっと集められる方法はないか、先輩方の母校愛を寄附につなげられないか、県庁全体で取り組んでいただければ、県立高校の足腰を強くすることができるのではないかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、最後の質問になります。

御船町に建設予定の産業廃棄物処理施設の影響について。

昨年の11月定例会でも質問しましたが、前回の質問の懸念事項を払拭するまでの答えをいただけなかったところも含めて、再度質問をさせていただきます。

地元の皆様、熊本県民の皆様は、2021年９月の新聞報道にてこの産業廃棄物処理施設の計画を知りました。それ以降、不安に思われている町民の皆様の声を含めて、御船町では、町議会でも様々な議論が繰り返されておりますが、調印式から３年８か月がたとうとしている今でも、産廃計画の内容が明らかにされていないのが現状です。

先日、御船町で行われた町民参加型の議会報告会は、２会場に分かれて実施され、町議会議長と副議長が分かれて出席をされ、それぞれの会場で、報告会の冒頭に、産廃に対する質問は受け付けいたしませんと発言をされたそうです。駆けつけた多くの町民の不安は、ますます増すばかりです。

その後日、令和７年３月に発足された地下水と土を守る会のメンバーが、御船町長に、町が主体となった町民説明会を開くよう要望書を提出しました。

その際、メンバーから町長に、３年８か月前の調印当時、町長はＰＦＡＳのことを知っていましたかと尋ねたそうです。すると、町長は、ＰＦＡＳのことは知らなかったと答えられたとのことです。

確かに、その当時は、ＰＦＡＳに関することは、社会問題としても一般的にも認知されておらず、私自身も知らなかったし、町長が知らなかったこともうなずけます。しかしながら、近年においては、ＰＦＡＳは大きな社会課題であり、ＰＦＡＳと健康被害に関することなどについては、町はもちろんのこと、上益城５町としても、十分に議論を深め、必要な対策を検討すべきであると私は考えます。

この産廃計画に当たり、県は、当時の副知事をはじめ県の担当者が、上益城５町の町長と他県の産廃施設を視察に行っています。令和３年10月に、知事立会いの下で、覚書まで５町の町長と業者間で交わされています。そもそも、この施設、これは県として必要だったんですか。

産廃施設の建設許可については、これは御船町を含めた上益城５町が主導権を持っているということなのか、県にもこの主導権があるということなのか、説明をしていただきたいと思います。

御船町は、議員、町の職員さん、そろって口をつぐんでいます。許認可権を持つ県が話をしていただかないと、何が処理され、どこから産廃物が持ち込まれるのか、不明なままとなります。ぜひ説明をお願いします。

上益城郡には、新たに産廃施設を造らないといけないような産業はありません。上益城の主要産業である農林業従事者の皆様も、大変心配をしていらっしゃいます。

また、前回触れさせていただきましたが、半導体製造過程においてＰＦＡＳを使用するそうですが、

そこから排出される産業廃棄物は、この御船の施設が完成すれば、御船町の産廃施設に持ち込まれることになるのでしょうか。お答えいただければと思います。

そして、御船町を含む上益城郡の住民や県民全体に対しても、産廃施設を新規建設した場合のメリット、デメリットなどを説明する機会をぜひ設けてください。とにかく、御船の町民の方々をはじめ多くの県民が、不安で不安でたまらないのです。

そこで質問します。

そもそも、この施設、上益城というよりも、これは県として必要だったのですか。

現在、環境アセスメント中である新施設の建設計画については、どこの企業が排出した、どのような産業廃棄物が持ち込まれる予定なのか。具体的には、ＴＳＭＣを含む半導体関連企業やＰＦＡＳを使用する企業などから排出される産業廃棄物が新施設に持ち込まれる可能性はあるのかないのか、環境生活部長に説明を求めます。

〔環境生活部長清田克弘君登壇〕

○環境生活部長（清田克弘君）　まず、御船町で計画されている一般廃棄物を含む廃棄物処理施設の必要性についてです。

上益城郡５町では、住民生活に必要不可欠な一般廃棄物処理施設の老朽化により、施設の建て直しが急務となっていました。一方で、熊本地震からの復旧、復興等で財政運営が厳しくなることが見込まれ、５町による施設整備が難しい状況にあるという相談が、当時、５町から県にありました。

そのような中、県内で一般廃棄物と産業廃棄物を合わせて処理する施設の整備を検討していた事業者から、県に対し提案があり、県としては、この提案が５町の課題に対応し得るものではないかと考え、その提案を紹介しました。

それを受け、５町において、財政負担の軽減や地域経済への効果があると主体的に評価され、施設整備について当事者間で協議を進められたものと承知しています。

次に、どこの企業が排出する産業廃棄物が持ち込まれる予定かという御質問については、事業者が廃棄物処理法による許可を受けた後に、その許可の範囲内で事業者が判断することになります。

また、どのような産業廃棄物が持ち込まれる予定かという点については、環境アセスメントの４段階ある手続のうち、２段階目の方法書に、この施設で処理する廃棄物の種類として、廃プラスチック類や紙くず、木くず、汚泥等を想定していると記載されています。

なお、事業者は、環境アセスメントにおいて、条例に基づき、地域における説明会の開催や意見の募集などを行われていますが、県としても、方法書に対する知事意見において、次の段階となる準備書の作成に当たっては、地域住民へ丁寧な説明を行うよう述べています。

県としましては、環境アセスメントの目的である環境に配慮したよりよい事業計画となるよう、準備書手続においても、専門家等の意見を伺いながら審査を行うとともに、引き続き、事業者に丁寧な説明を求めてまいります。

〔住永栄一郎君登壇〕

○住永栄一郎君　御答弁をいただきました。もう１回聞きたいぐらいです。

県として必要だったのかと聞きました。これは答えていただきたかったです。半導体関連のＰＦＡＳ類を使用した産業廃棄物が持ち込まれるか、持ち込まれないか、これも答えていただきたかったです。ＰＦＡＳのＰの字も出てきませんでした。環境アセスの２段階目の方法書に、廃プラスチック類、紙くず、木くず、汚泥等と記載されているということですが、ＰＦＡＳ類を使用した産業廃棄物は持ち込まれないということでいいんですか。それもぜひ聞きたかったです。

みんな、真実を知りたがっています。私だって、産廃場が必要なことだって分かっています。私もここで生活をしていますから。ですが、これだけＰＦＡＳが問題視されると、みんな不安で不安でたまらないんです。ぜひ、本当の流れを、本当の中身をお話をしていただきたい。

半導体関連の企業が来るということ、その時点でこれが必要なことは大体分かります。ですから、その部分も含めて説明をしていただかないと、なかなか県民は納得しないと思います。御船町でも、いろんな争い事、そういったところも起こっております。ぜひよろしくお願いします。県からも説明機会を設けていただきたいと思います。

最後になりました。最後に、１つ要望をさせていただきたいと思います。

○副議長（緒方勇二君）　残り時間が少なくなりましたので、発言を簡潔に願います。

○住永栄一郎君（続）　はい。

昨年の９月の定例会において、城戸議員からも質問がございました。学校給食の無償化の問題です。

財政支援を国に求める意見書が、全国の38都道府県の200議会以上から提出されているとの話を聞いています。

令和５年９月現在、文部科学省が実態を確認したところ、全国の自治体のうち、約３割に上ることが分かっています。今無償化になっているところがですね。

学校給食を無償化している自治体の財源としては、475が自己財源、そして、233自治体は地方創生臨時交付金、74自治体においては、ふるさと納税を原資として負担をしています。途中飛ばします。

こどもまんなか熊本の具体的な政策として、学校給食の無償化についても、国に先駆けて県として実施することを検討すべきと私は考えます。

青森県で、令和６年10月に、初の都道府県段階での無償化を開始しました。複数ある子育ての政策の中で、どういった取組が真に必要か、再度洗い直せば、県段階での学校給食の無償化には大きなメリットがあるはずです。

熊本県内におきましても、45市町村中、17市町村あります。ただ、本来、子供がどこに住んでいようとも、公平に一律なサービスを受けられるようにすることが必要であり、現段階では、居住地の違いによる教育費負担に著しい格差が生まれ、全ての子供がひとしく教育を受ける権利が損なわれていると指摘せざるを得ません。この点を踏まえると、県段階での無償化には大きな意義があると思います。

ぜひ、食のみやこ熊本、少子化対策、いろんなことを踏まえても、熊本は、１年間の予算が43億かかるということを先日お伺いをいたしました。熊本県は、8,500億の僅か0.5％です。ぜひ、すぐやれる取

組だと思います。どうぞ強く要望しますので、よろしくお願いいたします。

以上で、時間いっぱいになりましたけれども、私の質問を終わらせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。(拍手)